

おじいちゃん弔いの旅

フルソン 櫻子

3月23日

ドイツから帰国翌翌日、高知を夕方便にて出発。

待望の「おじいちゃん、弔いの旅」へ母、高知在の妹家族とアメリカから帰国した妹と6人でいざ！

羽田にて和食、夜中12時過ぎのフライトで機中泊。

3月24日

マニラに現地時間朝4時前に到着。

予約していた Legend Villa ホテルに到着するも、チェックイン時間には早すぎ、交渉の末、ロビーで待たせてもらうことに。

空腹で、朝食buffetが始まる7時を待ちかねて、buffet室に入る。

ヨーロッパや日本のホテルの朝食とは違う、ローカル味たっぷりの食べ物が並び、興味深い。

その後、ホテルの自分たちのルームで小時間休憩し、徒歩にて散策をする。

行く当てもなくひたすら歩き続けると、古い教会にたどり着き、当時日本軍が占領していたという St. Augustin 教会だということが後でわかった。

戦時中は武器火薬庫として使われていたそう。

教会裏には静かな公園があり、戦争前からあったであろうか、古い大木が数々あり、ひょっとしたら祖父も戦争の束の間、この柔らかい風の中、一時だけでも心休まる瞬間があったのではないだろうか、とふと思い、この時間を、この空間を72年の歳月を超えて共有できているのかも知れないと思った。



3月25日

早朝、ホテルをチェックアウトし、いよいよ祖父が亡くなったというビンタワンのある **Cauayan**（カウアヤン） 向けてマニラ空港国内線乗り場に向かう。
待ち時間中には空港の隅にあるマッサージ屋に6人が順番にマッサージを予約し、疲れをほぐしてもらい感謝する。

機内から、日本兵が苦しい思いをしながら敗走したと思われる山々を見下ろす。
1時間少々で到着する。



空港の小さな建物から出ると早速、暑い熱波が襲う。

バスターミナルまでは歩くにはしばらくあるらしく、ミニバイクのようなものの横にも二人ほど乗れる三輪車（トライシクル）で移動する。値段交渉は慣れてきた。



バスターミナルの横のスーパーで、少し食品を買い込み、ソラノ行きのバスに乗り込む。

バスの中には現地の人たちとの交流もあり、楽しかった。

バス停で停まるたび、乗り込んでくる物売りの人たちの器用に紙幣を指の間に挟んで売る姿が興味深かった。

揚げたてピーナツ（一袋15円ほど）、ウズラの卵を茹でたものや餅のようなものを何かの皮で包んだチューピーなど売っていた。

道中に見られる風景は高知の田舎のそれに似ており、田園風景にさぞ祖父も故郷を想ったに違いないと思う。

ソラノ到着後、予約していたホテルに荷物を置き、近隣を散歩し、明日のビンタワン行きについて現地の人に尋ねるものの、その地を知っている人が見当たらず、明日が少々心配。

近所の中華店で夕食を済ませ、ホテル隣のスーパーでツマミとビールを買い入れホテルで疲れを癒す。

3月26日

ソラノのジブニー乗り場でしばらく交渉していると、一人ビンタワンのことを知っている人がおり、その人と、後数人のトライシクルに乗り30分ほど行ったと思う。

村の入り口でおろしてもらう。

さあ、ここからどう行けば何が見つかるのか。。。

道中には子供たちの姿をよく見かける。皆にこやかに笑っているのが印象的だった。

緑のマングを仲良にかじりながら歩く男の子たちも見かける。

ブーゲンビリアも咲き誇り、熱帯の国にいるのだと実感する。

猛暑の中ひたすら歩くビンタワン。

日本からグループ全員がタオルの首巻きをしているのが役に立つ。

各自が持って歩いている水のペットボトルも満タン。

しばらく行くと教会を見つける。誰もいない。

何かに導かれるかのように中に入ると、外とは違い少しひんやりと気持ちがいい。

黄色と青色のステンドグラスが美しい。この場所に祖父がいたのであろうか。

何となくその存在を感じ、自然と「この場所で弔させてもらおう」という気持ちになり、祭壇を借り、日本からお供え用に預かって来ていた和菓子とソラノで買った水をお供えし、一同祈る。

お菓子は母の双子の姉である叔母と一緒に旅行が叶わず、持たせてもらったものだった。



外にでると横には川が流れており、その周りも歩いてみる。
熱帯特有の木々に囲まれ、一箇所だけ竹が空に向け濛々と茂っている所があり、日本兵の霊を感じさせるような気がした。

教会を後にし、直感に委ねるまま、猛暑の中を歩く。
大人はあまり見かけず、しばらく歩く。

小物屋をやっているような男性が見つかり、戦時中のことを知りたく、こうして弔いの旅に来ていると説明すると、自分の叔母がここら辺では戦争の事を知っている数少ない一人だからちょっと聞いてくる、と店をそのまま離れ、すぐに戻って来てくれた。

89歳のオーロラさんに昔の話を聞く。
彼女の話では、先程訪れた教会跡には戦時中は日本陣営がはられていたそうだ。
そして、数キロ離れた所に日本兵の墓地があるという。

戦争中の日本の仕打ちに対し申し訳なかったと謝罪をし、また戦時中の話を聞かせてくれたことにお礼を言い、教えてくれた方角に向かいまたひたすら熱波の中を歩く。

道中にはドリヤンやポメロの木々もあり、この暑い中を逞しく生きている植物たちが尊いと思った。



どのくらい歩いたか分からないが、しばらく歩くと珍しく立派な建物があり、中で聞いてみると市役所だという。

日本から来ていると告げると、ピンク色のTシャツを着た市役所職員たちが次から次へと歓迎してくれ、突然の来訪を喜んでくれ、それにはこちらもびっくりする。

近くにあるという、何十年か前に建てたという日本兵の合同墓地に案内してもらう。祖父に導かれてここでやっと会えた気がした。

Japanese shrine と書かれたセメントでできた墓地には、近くの大木の下で見つかったという日本兵達の遺骨を祀っているという。

祖父もここに安眠しているのであろうか。。。

眠っているような気がした。

ここを訪れた日本人はなんでも30、40年前だったらしい。

ここまでの不思議な導きで祖父の足取りが少し分かったような気がした。

11人の職員の方たちにお礼を言い、後にする。



その後、ビンタワンの村で見つけた小さな食堂でお昼をとり、その場で大勢いた中学生達と知り合い、会話をし、最後には10人ほどいた彼ら全員が歌を歌ってくれ、純朴で美しい彼らの笑顔に癒され、またまた感謝の思いいっぱいビンタワンを後にする。



夕方には次の宿を予約しているラガウェまでジブニーに乗る。

山の中で場所がわからず、しばらくウロウロするが、やっと見つかる。

宿のオーナーはベルギーで住んでいたというフィリピン女性で、話を聞いていると、イフガオ部族出身らしく、近くにあるイフガオ民俗館に案内してくれる。

同じ場所にキアングンの山下神社と言われる慰霊壇があり過酷な状況で敗走した日本兵に祈りを捧げる。

帰りに近くの市場で生きたままの鶏を買い、イフガオ流に調理した夕食を頂く。

山の中で吠える何十頭もいる野犬の鳴き声に夜は眠れなかった。

3月27日

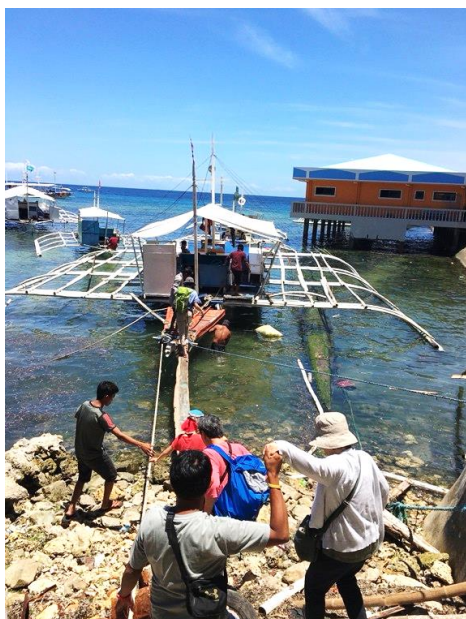
カウアヤンからマニラ、マニラからセブと一日フライトを乗り継ぎ、無事セブに到着。ホテルから繁華街を歩き、時間は相当に遅かったが、辛うじて開いていたレストランで久々の和食を頂く。

3月28日

無事、吊いの旅も終わり、心持ちも軽く、残りの数日は家族で楽しもうと思い、船に乗り、オランゴ島に渡り、青い空の下、広い透き通る海で泳ぐ。

船を1日借り切り、島から島へ渡してもらい存分に南の島でスノーケルを楽しむ。

先頭の息子ジョセフは日本でいう小学生だが、学校にも行かず、親について船の仕事をしているのを知り、祖父のように戦時中に男子として生まれてきたばかりに戦争に巻き込まれた人達もたくさんいた中、改めて恵まれている自分たちの状況に感謝する。



3月29日

セブから数時間かけ、エソイ温泉を目指す。
道中の険しい山の中は山裾で待機していた人たちにミニバイクに3台3人がけで送ってもらう。少々ハラハラすることもあった。
誰も訪れていないような温泉ではあったが、いいお湯につかり、また現地の人たちとの交流もあり、楽しい1日であった。

その後、周りの山を歩くが、小屋とも家とも思われぬような粗末な建物で暮らしている中、笑顔いっぱいであい拶してくれる現地の人たちの逞しさが印象に残る。
バイクの男衆たちに教えてもらった近くの野外の焼肉屋で夕食をとる。



3月30日

朝早く起き、セブ北端のオスロブにジンベイザメと遊泳しに行く。
早朝5時半出発予定であったが、バスの接触事故があり、バスの中で1時間ほど待たされる。満員で座れない。

A group of divers are swimming underwater in clear blue water. In the foreground, a large whale shark is visible, swimming towards the camera. Several divers are positioned around it, some making hand gestures. The scene is captured from an underwater perspective, showing the divers' legs and fins as they move through the water.

セブを後にし、1日マニラの水族館や、ショッピングを楽しみ、フィリピンを後にする。祖父の笑っている顔が目に見え、フィリピンを訪れる事ができたことに、また道中の事故などなく無事日本に帰ってこれた事に心から感謝する。

月日	曜	場所	出発	到着	交通手段	料金	宿泊先	
3.23.	土	高知	18:55		JL498	72410 yen x 6	機内泊	
		羽田		20:10				
3.24.	日	羽田	00:05		JL77			
		マニラ		03:55				
		(マニラ遊)				8033 php	マニラ泊	Legend Villa
3.25.	月	マニラ	09:15		DG6024	1052 ユーロ		
		カワヤン (Cauayan)		10:30		2118 php	ソラノ泊	Meaco Hotel Solano
3.26.	火	(ラガウエ)				5200 php	ラガウエ泊	Brussels Garden Hotel
3.27.	水	カワヤン (Cauayan)	12:10		DG6025	18400 php	セブ泊	Main Hotel & Suites
		マニラ		13:10				
		マニラ	17:25		Z2765			
		セブ		18:45		900 php (shuttle)		
3.28.	木	(セブ)					セブ泊	Main Hotel & Suites
3.29.	金	(セブ)					セブ泊	Main Hotel & Suites
3.30.	土	(セブ)					セブ泊	Main Hotel & Suites
3.31.	日	セブ	10:30		Z2787		機内泊	
		マニラ		12:00				
		マニラ	23:25		JL78			
		羽田		04:45				
4.1.	月	羽田	07:25		JL491			
		高知		08:50				

横山春喜おじいちゃん、ありがとう！